

ハーモニー

Harmony

第 35 号 2004 年 9 月 1 日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒 448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

目 次

第 12 回学術集会プログラム	2
学術集会（熊本）の企画紹介	4
学術集会事務局からのお知らせ	4
特別企画－私の県の「ここが特色」②	
埼玉県における養護教諭の現職研修	5
大学の養成教育と現職養護教諭との交流	5
学会共同研究「養護診断開発のための基礎的・実践的研究	
－四肢の痛みの訴えを例に一」の研究経過報告	6
養護教諭の専門領域に関する	
用語の検討プロジェクトについて	6
学会誌第 8 巻第 1 号投稿原稿募集～締め切り迫る～	7
推薦委員の立候補受付	7
日本養護教諭教育学会第 13 回総会告示	8
お知らせ・編集後記	8

日本養護教諭教育学会 第12回学術集会プログラム
メインテーマ「専門性を追究し発信する養護教諭を目指して」

期日 2004年10月9日(土)12時～10月10日(日)16時30分

会場 くまもと県民交流館パレア

〒860-8554 熊本市手取本町8-9 (テトリアくまもと内)

TEL 096-355-4300 FAX 096-355-4317

JR 熊本駅からバスで約15分 (通町筋バス停下車すぐ)

JR 熊本駅から市電で約15分 (水道町下車すぐ)

熊本空港からバスで約40分 (通町筋バス停下車すぐ)

10月9日(土) 第1日目

12:00～13:00 受付

◇学会共同研究(13:00～13:30)…………… 座長 後藤ひとみ(愛知教育大学)
 養護教諭の実践の評価について -研修の成果をどう生かすか-

代表 江寄 和子(京都市立崇仁小学校)

◇シンポジウム(13:35～15:30)…………… 座長 木村 龍雄(大阪教育大学)

「養護教諭の専門性の新たな追究と発信」

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 健康教育に関しての新たな追究 | 福富 敦子(熊本市立出水中学校) |
| 2. 健康相談活動に関しての新たな追究 | 古賀由紀子(熊本市立力合中学校) |
| 3. 健康管理に関しての新たな追究 | 鎌田 尚子(女子栄養大学) |
| 4. 子どもと社会と養護教諭 | 安藤 学(九州看護福祉大学) |
| 5. 発信するための原理、原則-報道の現場から- | |

高本 文明(熊本日日新聞社)

◇特別講演Ⅰ(15:40～17:00)……………

座長 瀬口久美代

(熊本大学教育学部附属小学校)

「養護教諭のヒューマンスキルと学校組織の活性化」吉田 道雄(熊本大学教育学部附属教育実践総合センター)

◇懇親会(18:00～20:00) ニュースカイホテル

10月10日(日) 第2日目

8:40～9:00 受付

◇一般演題(9:10～9:50)

第Ⅰ会場(9:10～9:50)…………… 座長 中桐佐智子(吉備国際大学)

I-1 学生がとらえた養護実習の意義と養護実習指導のあり方

-「臨地の意義」との照合を通して- ○塩田 瑠美(千葉大学教育学部) 他

I-2 看護臨床実習に対する形成的評価法の試み ○佐藤 秀子(関西女子短期大学) 他

第Ⅱ会場(9:10～9:50)……………

座長 山崎 隆恵(神奈川県立藤沢総合高校)

II-1 中学生の携帯電話の利用実態と睡眠に及ぼす影響に関する一考察

○波多江祥子(前原市立前原小学校) 他

II-2 生徒の生活行動と疲労感に関する研究(第1報)

-完全学校週5日制導入初年度の調査より-

○蓑原千賀子(熊本市立出水中学校) 他

◇特別講演Ⅱ(10:00～11:00)……………

座長 松本 敬子(九州看護福祉大学)

「ユニバーサルデザインと教育」

潮谷 義子(熊本県知事)

◇ 一般演題 (11:10 ~ 11:50)

第Ⅰ会場 (11:10 ~ 11:50) 座長 竹田由美子(神奈川県立保健福祉大学)

- I - 3 職制運動に学ぶ(第2報)
- 昭和14年2月4日の促進大会について -
○杉浦 守邦(蘇生会総合病院)

- I - 4 性教育における今後の養護教諭の役割とは
- 戦後における日本の性教育の変遷と米国性教育との比較を通して -
○庄子 幸恵(仙台大学) 他

第Ⅱ会場 (11:10 ~ 11:50) 座長 岡田加奈子(千葉大学教育学部)

- II - 3 子ども把握、子ども支援のための養護診断についての検討
- 看護診断過程(アセスメント過程)の検討を通して -
○大中 裕理(大阪教育大学大学院) 他

- II - 4 養護教諭専攻学生のウィルス感染症抗体保有状況 - 麻疹、水痘、風疹 -
○渡邊 敦子(女子栄養大学) 他

◇ 総 会 (13:00 ~ 14:00)

◇ 一般演題 (14:10 ~ 16:20)

第Ⅰ会場

(14:10 ~ 15:10) 座長 大谷 尚子(茨城大学教育学部)

- I - 5 大学生の持つ養護教諭および保健室の印象
- A大学の学生を対象とした調査から - ○今野 洋子(北海道浅井学園大学)

- I - 6 学生が思考する養護教諭像に関する一考察
- 入学時及び養護実習直後の調査から - ○小笠原紀代子(横浜高等教育専門学校) 他

- I - 7 外国人留学生に対する養護教諭の役割 ○安林奈緒美(岡崎城西高等学校) 他
(15:20 ~ 16:20) 座長 三木とみ子(女子栄養大学)

- I - 8 保健室登校児童・生徒への支援に関する研究
○小西 俊子(大阪市立東井高野小学校)

- I - 9 特別支援教育を必要とする児童の事例分析と養護教諭の取り組み
○松葉 佳子(大牟田市立笹原小学校) 他

- I - 10 知的障害養護学校における養護教諭の活動実態
○圓岡 和子(豊田市立豊田養護学校) 他

第Ⅱ会場

(14:10 ~ 15:10) 座長 小原れい子(熊本市立井芹中学校)

- II - 5 地域学校保健委員会を通じた健康な町づくり
○松野 孝雄(小国町立小国中学校)

- II - 6 地域保健が捉える学校保健との連携について ○岡本 啓子(大阪教育大学大学院健康科学専攻) 他

- II - 7 幼児の不定愁訴と食生活についての一考察
○福富 由美(熊本大学教育学部附属幼稚園)

(15:20 ~ 16:20) 座長 植田 誠治(茨城大学教育学部)

- II - 8 エイズ教育にとりくんで学んだこと - HIV感染者との交流を通して -
○内田みゑ子(富合町立富合小学校)

- II - 9 高等学校でのピアエジュケーションの教育的効果についての一考察
○大家さとみ(佐賀大学文化教育学部附属養護学校)

- II - 10 養護教諭に関する学会発表演題の動向
- 日本学校保健学会および日本養護教諭教育学会の分析から -
○斉藤ふくみ(熊本大学養護教諭特別別科) 他

学術集会（熊本）の企画紹介

実行委員長 松本 敬子

第12回学術集会のメインテーマは「専門性を追究し発信する養護教諭を目指して」と致しました。

このテーマに従って、シンポジウムは養護教諭の専門性の部分を3点にしぼり、本質面と新たな側面を、研究と実践活動から3氏に提案頂きます。これらの専門情報や自らの専門性を、人々に、集団に、社会に如何に効率よく伝えるかの部分を、社会学とメディアの立場から2氏に提案頂き、全体をキーワード「発信」でまとめたと考えています。幸いなことに、大阪教育大学の木村氏にコーディネートして頂けます。

まず「健康教育」では、福富氏が生涯の健康づくりを目指す課題解決学習の過程での評価実践を、子どもの未来に向けての発信として提案します。次いで、古賀氏が「健康相談活動」を相談以前の視点を取り上げ、子どもの心に、日常的に発信する養護教諭の態度・行動とは何かを調査・分析によって提案します。健康管理面は、女子栄養大学の鎌田氏にお願いしました。健康管理をすべての養護活動の基地として位置づけ、情報収集、判断、発信のプロセスや課題、新たな意義を提案下さいます。発信の在り方についての提案には、まず九州看護福祉大学の安藤氏が「子どもと社会と養護教諭」と題し、養護教諭へ少々辛口の社会学を披瀝して下さい。次いで、熊本日日新聞社編集局文化生活部の高本氏は「発信するための原理・原則—報道の現場から—」として具体的な発信の在り方を示唆頂けます。

続いて特別講演Ⅰの吉田氏は、リーダーシップ論で名を成され、教育学、看護学、工学のあらゆる分野の支持を得られる社会心理学者です。特に養護教諭の養成教育や、教育関連の研究面には永年ご協力を

頂いております。今回の多面に亘るシンポジストの提案を視野に入れながら、養護教諭の今に、適切で温かいエールを下さると思えます。

2日目の特別講演Ⅱの潮谷氏は、全国で2番目に誕生した女性知事です。福祉活動に長いキャリアをお持ちで、心理、教育に造詣が深い方です。今回は、福祉経験に基づく子育てや学校教育の課題と、潮谷県政が掲げる「くまもとユニバーサルデザイン」との関わり、そして、ユニバーサルデザインの常々の実践者であるとして、養護教諭への期待を込めてお話し頂きます。

研究発表は20題です。質疑・討論の時間を少しでも多く確保し、養護教諭の職務に大いに役立つ方向にもっていきたいと考えています。

多くの方々のご参加を頂き、第12回学術集会が盛会でありますことを願いながら、実行委員一同、詰めの準備に入っているところです。

学術集会事務局からのお知らせ

本学会の会場を熊本市の中心部に設定しました。JR、空港そして郊外からも交通の便の良いところです。日程は3連休と重なりますので、飛行機・JRの切符や宿泊の手配をお早めにお願ひします。会場の周辺は飲食店が多数ありますが、昼食時間が限られていますので、お弁当のご予約をお願ひします。また、懇親会場は市電で移動できる場所で開催し、アトラクションは、熊本の幻想的な踊りを企画しましたので、どうぞお楽しみに！



埼玉県における養護教諭の現職研修

田嶋八千代（埼玉県立常盤高等学校）

埼玉県では、平成15年度よりさいたま市が政令指定都市として誕生し、県の現職研修については研修により協議のうえ参加、年次研修については委託により合同で実施、県養護教員会主催の研修は、県も市も一つの組織であるため合同で実施しています。県の現職研修においては、養成、教育現場及び行政機関とが連携を十分に図り、年次研修や各市町村の研修会等で生かされるよう工夫しています。

1. 健康相談活動支援体制整備事業への取組

本県においては、平成8～13年度にかけて「こころやすらぎ保健室相談活動研修会」を実施し、平成14年度より文科省委嘱の本事業に取り組み、健康相談活動に関する研修や事業を立ち上げ、養護教諭の資質や力量の向上を図っています。

[平成14年度]

- ・健康相談活動研修会・・・県内養護教諭対象
- ・「養護教諭が行う心と体への健康相談活動実践のためのQ&A」作成（理論編）

[平成15年度]

- ・健康相談活動研修会・・・県内全養護教諭対象
- ・健康相談活動実践事例集作成（実践編）
- ・健康相談活動指導者養成研修会
保健管理に関する内容、演習、事例検討等
- ・サタデーサポート講座（教育センター事業）

児童思春期の発育発達理解講座
健康相談活動の進め方（演習）

[平成16年度]

- ・健康相談活動研修会・・・県内全養護教諭対象
- ・健康相談活動専門研修会・・・県立盲・ろう・

養護学校養護教諭及び養護教諭希望者対象

2. 養護教諭の年次研修

教育職員としての養護教諭が、教員に共通に求められる基本的な資質能力と、養護教諭としての資質能力の向上を目的として現職研修の一環として実施しています。養護教諭のライフステージに応じた「基礎研修」と「専門研修」の2本の柱を設定し、

- 新規採用研修では、執務に関する基礎・基本を「固める」（27日間）
- 5年次研修では、4年の教育実践をもとに養護教諭のあり様に「気づき」、その専門性を「高める」（5日間）
- 10年経験者研修では、10年前後の実績を基礎に中堅養護教諭としての力量の「UP」を図る（15日間）

ことを踏まえ研修内容を設定しています。

特に、10年経験者研修では、一つのテーマをじっくり丸ごと学ぶスタイルにし、“実務と研修を踏まえた”研究とその発表も行っています。研修内容は毎年検討し、各年次研修において、今日的な教育の課題と養護教諭の職務との関わりの内容を取り上げ、実践力のアップを目指しています。

3. その他の研修

- ・養護教員研修会 年2回開催
（県養護教員会・県教育委員会・市教育委員会共催）・・・全養護教諭対象
- ・教育センター研修・・・特定のものを除き、全ての研修を希望することができる。
- ・夏季セミナー（県養護教員会主催）・・・養護教諭希望者対象

大学の養成教育と 現職養護教諭との交流

鎌田尚子（女子栄養大学）

【一種と専修免許状の認定講習】

埼玉県教育委員会と埼玉県養護教諭部会の要請を受けて、平成7年から平成15年ま

で養護教諭一種免許状認定講習会を実施することで、埼玉県下の多くの先生方、群馬県、茨城県、東京都、関東圏の先生方と大学教育を共有できた。このことは、実習生や卒業生を引き受け、受容し育ててくださる現職の養護教諭の方々と同じコンセプトに立っててことを手伝うことになり有用であったと考える。

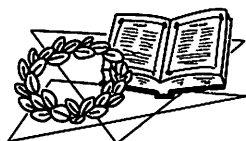
平成11年から埼玉県教育委員会と埼玉県養護教諭部会から分厚い署名と要望書、全国養護教諭連絡協議会からの要請文も頂き、慎重に準備期間を経て、養護教諭の専修免許状の認定講習会を平成16年より開講することとなった。埼玉県より7割、卒業生が2割、残り11都県の養護教諭から応募があり、大学院の知を共有することになった。

この間、平成7年には、大学院保健学修士課程の開設にあたって養護教諭論領域をおき、平成9年には保健学博士後期課程を開設して、養護教諭や学校保健、看護関連の博士課程の研究が出来ることとなった。

【現場と大学の交流】

大学教育の中に、現場からの人事交流を多く採用している。例えば保健室経営論や教育実習事前指導に、教育委員会指導主事、現職の養護教諭を非常勤講師で迎え、最近の情報を教育して頂く機会を多様に企画し効果を上げている。

その他現場との交流は、大学公開講座、地域の行事へ学生の参加、病院の介護ボランティアを受け持つ学生サークル活動、日本赤十字社埼玉県支部の一つを学生が手伝う、学校評議員制度のメンバーとして教員が協力する、学生と教員が小・中学校の健康教育へ出張お手伝い、大学周辺の養護主任会と共同勉強会等々、双方向性の多様な展開をしている。



学会共同研究

「養護診断開発のための基礎的・実践的研究—四肢の痛みの訴えを例に—」の研究経過報告

代表 岡田加奈子（千葉大学）

本研究は、養護教諭の具体的な実践を分析することにより、養護教諭が日々、どのような判断をし、活動をしているかを「概念づけ」、「明確な言葉でしめす」ことを目指した研究です。つまり、「実践知」を概念化することを目指しております。本研究は、すでに2年間にわたる基礎的な議論を行って参りました。学会共同研究としての今年度は、5月の研究会議で、研究計画の最終検討を行い、具体的なデータの収集、分析を開始し始めました。

養護診断というと、ちょっと言葉に抵抗を示される方もおられるかもしれませんが。しかし、言葉の抵抗感にとらわれず、養護教諭の教育職員としての本質の一端を、明確に示せたらというおもいであります。かなりの困難さも感じておりますが、学会共同研究として、議論をかもしたさせる、きっかけとなるべく研究したいと思っております。

養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクトについて 理 事 会

第12回総会において、本プロジェクトメンバーの人選とその報告が理事会に課せられました。理事会では、同総会で提案し了承された下記の内容を再確認した上で、人選にあたっては、①各地で活躍されている現職養護教諭の方々を中心に行うこと、②第7巻までの学会誌に掲載されている論文内容を勘案すること、③学会共同研究へ

の参加状況などを勘案すること、④本学会の全体を見通す立場から理事長経験者であることなどに配慮しました。

【確認事項】

1. 本プロジェクトの目的

養護教諭の専門性が論議されるなか、専門領域で多用される用語（専門用語・学術用語）の研究は進んでおらず、例えば健康相談活動とカウンセリング、教育相談などの違いが十分に理解されていない。そこで、学術的な学会誌編集の立場から、養護教諭の専門領域に関する用語を整理し、その定義づけ（用語解釈）と英訳化について検討する。

2. 期待される研究成果

養護教諭の専門性に深く関わる「共通言語」を作り出すところに大きな独自性を有しており、このような検討は本学会の使命である。

3. プロジェクトメンバー

本学会編集委員会委員長及び研究活動担当理事を中心として、学会員 10 名程度による。

【プロジェクトメンバー】

- 浅利 恵子(弘前大学教育学部附属養護学校)
- 河田 史宝(石川県金沢市立長田中学校)
- 鈴木 裕子(神奈川県横浜市立高田東小学校)
- 林 典子(静岡県豊田町立豊田中学校)
- 古田扶三子(愛知県岩倉市立岩倉中学校)
- 駒田 玉美(三重県教育委員会)
- 岡田加奈子(千葉大学)
- 鎌田 尚子(女子栄養大学)
- 堀内久美子(元理事長・名古屋市立大学)
- 徳山美智子(理事)
- 植田 誠治(理事・研究活動担当)
- 後藤ひとみ(理事・編集委員会委員長)

学会誌第 8 巻第 1 号の投稿原稿募集

～締め切り迫る～

「日本養護教諭教育学会誌」第 8 巻第 1 号の原稿を募集しています。原稿の種類は、論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。

年間を通して受け付けていますが、第 8 巻第 1 号の原稿の最終締め切りは、2004 年 9 月 30 日(木)です。期日が迫っていますので、会員の皆様は奮ってご投稿下さい。詳細については学会誌第 7 巻第 1 号に掲載の「投稿規定最終改正 2001 年 10 月 7 日」をご覧下さい。ご不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

～積極的な投稿をお待ちしています～

〇〇推薦委員の立候補受付〇〇

本学会の次の役員改選は 2005 年ですので、それに先立って、2004 年の総会で推薦委員を選出します。つきましては、本学会の会則第 12 条及び実施細則第 6 条に則り、入会后 2 年以上経過した会員の方の立候補を受け付けます。なお、今回は 4 名を選出します。

推薦委員の立候補者は次の要領で届け出てください。記載の様式は任意です。

☆記載事項：①氏名、所属、連絡先

②立候補の理由

☆締め切り：2004 年 9 月 30 日(木) 必着

☆送り先：事務局へ FAX で申し込むこと

締め切り後、10 月 8 日の理事会で受付順及び立候補理由などをもとに選考し、10 月 10 日の総会で決定します。

【参考】

日本養護教諭教育学会会則第 12 条

(2) 推薦委員会は、役員改選に際し、その候補者に関する事項をつかさどる。

日本養護教諭教育学会会則実施細則第 6 条

推薦委員の選出は次の通りとする。

(1) 推薦委員の人数は、4～7 人の範囲で、

理事会で定める。

- (2) 推薦委員の有資格者は、会則第4条に定める有資格者で、引き続き2年以上会員であった者とする。
- (3) 推薦委員は、役員改選の1年前の総会において選出する。推薦委員長は、推薦委員の互選とする。
- (4) 推薦委員の任期は1年とする。

2 推薦委員会は、総会までに役員候補者を推挙し、推薦理由を添えた名簿を作成する。

日本養護教諭教育学会 第13回総会告示

理事長 天野敦子

日時 2004年10月10日(日) 13:00～14:00

場所 熊本県民交流館パレア

- 議題1. 2003年度事業報告・決算報告
- 議題2. 2003年度決算・監査報告
- 議題3. 2004年度事業経過報告
- 議題4. 2004年度補正予算案
- 議題5. 2005年度事業計画
- 議題6. 2005年度予算審議
- 議題7. 研究助成金対象研究の選定
- 議題8. 推薦委員の選出
- 議題9. 「日本養護教諭教育学会会則実施細則」の改定
- 議題10. 「日本養護教諭教育学会誌投稿規定」の改正

* 第13回総会に向けて会員の確認をします。今年度会費を納入した会員が総会で議決権を持ちます。今年度まだ会費を納入されていない方には振り込み用紙を同封しましたので、お近くの郵便局からお振込みください。入れ違いに送金いただきました折はご容赦下さい。

* 第13回総会の委任状を同封しました。総会を欠席される方は委任状の提出をお願い

致します。お手数ですが、50円切手を貼ってください。9月30日(木)までに、ご投函をお願い致します。

お知らせ

☆編集委員会より

学会誌編集作業の充実を図るために新たに2名の方に編集委員をお願いすることにしました。ここにご紹介致します。

○林 せつ子(安城市立丈山小学校)

○北井美奈子(愛知淑徳高等学校)

なお、石田妙美委員が都合により委員を続けることが出来なくなりました。これまでのご尽力に感謝申し上げます。

☆本学会の正式ホームページを作成しましたので、ご利用ください。

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

学会誌第7巻第1号の「学会報告・シンポジウム」の内容について、シンポジストの湯浅恭正氏より訂正依頼がありました。以下のような訂正をお願い致します。

P.115の1. 発達支援論と学校教育の16行目

【誤】おける当事者性をより個々の行動

【正】当事者性をより意識し、関係者とつながりながら、実践の「場に入り、つくる」論理をいっそう浮き彫りにする。子どもの個々の行動

編集後記

☆今夏の暑さのせい、教室のホルムアルデヒドが高値を示し、換気や検査をしながらの編集でした。暑さは困ります!

(山崎)

☆今度は熊本で熱い議論を!(鈴木)